

新任薬剤師研修会に参加して

水戸医療センター 薬剤科 青野 豊大

出身大学：帝京平成大学（平成25年）

興味のある分野：循環器疾患、感染症

私は、平成25年4月より国立病院機構水戸医療センターで薬剤科に入局し、薬剤師として第一歩を歩み始めました。働き始めて2ヶ月、少し職場の雰囲気にも慣れてきたこの時期に第17回新任薬剤師研修会に参加しました。

研修内容は「病院薬剤師としての自覚」、「病棟薬剤業務について」、「緩和ケアチーム」、「医療安全とは」、「3、4年目の薬剤師からの提言」について各病院の先生方からの講義を拝聴し、その後「小児科領域」というテーマでグループディスカッションを行いました。

「病院薬剤師としての自覚」では、「5S活動」という言葉が印象的でした。調剤室では、忙しさのあまり小さなゴミが落ちていても見落としてしまいがちです。周りの状況に目を向け、行動できる習慣が、しつけないのではないかと感じました。

「病棟薬剤業務について」では、病棟業務の現状とこれからの課題について学びました。当院でも、今年度から病棟業務が本格的に始まります。病棟業務の位置づけや期待など改めて考え直すことができました。

「緩和ケアチーム」では、緩和ケアチームの一員として実際に活躍している先輩の講義を通して、薬剤師の役割を理解することができました。今後、緩和ケアに関わる機会があれば、是非積極的に参加したいと思いました。

「医療安全とは」では、医療事故が起りやすいポイントや、実際に行われている事故防止対策を学びました。業務に慣れてきたこの時期は特に注意しなければならないと思いました。また、当院におけるヒヤリ・ハット事例も知っておきたいと思いました。

「3、4年目薬剤師からの提言」では、2名の先輩から、各施設での業務内容や取り組みについて伺うことができました。それぞれの先輩の体験談の中で共通していた部分が、薬剤師+αの資格を目指そうということでした。私自身、病院で働くことになったら、認定薬剤師や専門薬剤師の資格を取得したいと思っていたので、とても共感できました。日々の業務では覚えなければならないことがとても多く、出来て当たり前のことを出来るようにする大変さを実感しているところです。しかし、これからはある分野におけるスペシャリストとして、活躍する薬剤師も必要とされるのではないかと思います。すでに、様々な分野で薬学的な見地から問題をとらえ、解決できる薬剤師が活躍しています。薬剤師同士でもそれぞれの分野に詳しい人が集まれば、お互いに知識を共有することで更に質の高い医療を実現できるのではないのでしょうか。

「グループ研修」では、患者背景を基に、グループごとに問題点や服薬指導の方法などについて話し合いました。患者の年齢やコンプライアンスに着目する人や、患者の母親の薬に対する考えに着目する人など様々でした。また、グループ発表では、仲間とアドバイスを交換しながら分かりやすく簡潔に伝える発表に仕上げることができました。様々な人の意見を聞いて問題を解決していく経験は、病棟業務で活かすことが出来、今回の研修を受けてよかったと思いました。

最後になりましたが、貴重な体験をまじえた講義、同じ新任薬剤師と関わる機会をいただいた関信地区薬剤師会の先生方、意見を交わした薬剤師の各先生方に心より厚く御礼申し上げます。